

～新たな信号システムで地下鉄をより安全、安心に～

11月から丸ノ内線の一部区間において 無線式列車制御システム(CBTCシステム)の走行試験を開始しました

東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：山村 明義、以下「東京メトロ」）は、2024年度に日本の地下鉄では初めてとなる無線式列車制御システム（CBTCシステム）の導入を予定しており、2022年11月から丸ノ内線の営業線一部区間（四ツ谷駅～荻窪駅間）において、営業運転終了後に走行試験を開始しました。

CBTCシステム^{※1}では、無線通信を使用することで、列車の間隔をさらに短くすることができるようになり、高い遅延回復効果が得られる等、運行の安定性が向上します。

また、設備構成を冗長化^{※2}することで、システム全体の信頼性を向上させることができます。

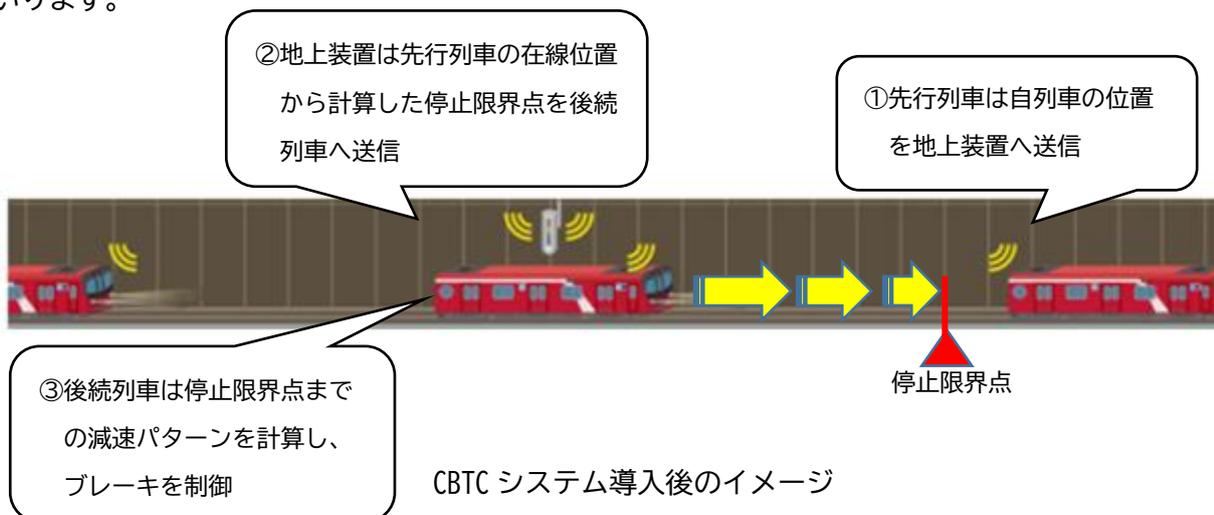
※¹ CBTCシステムとは、列車の安全・安定運行を制御するために無線通信技術を利用する信号保安システムの一つです。地上装置が先行列車の位置などから後続列車が走行可能な位置を算出し、無線を介して後続列車に伝え、後続列車は自ら走行可能な速度を計算して運行を制御するシステムになります。

※² 冗長化とは、システムの一部に障害が発生しても機能を維持できるよう、機器を2重化するなどの準備をしておくことです。

今後の予定は以下のとおりです。

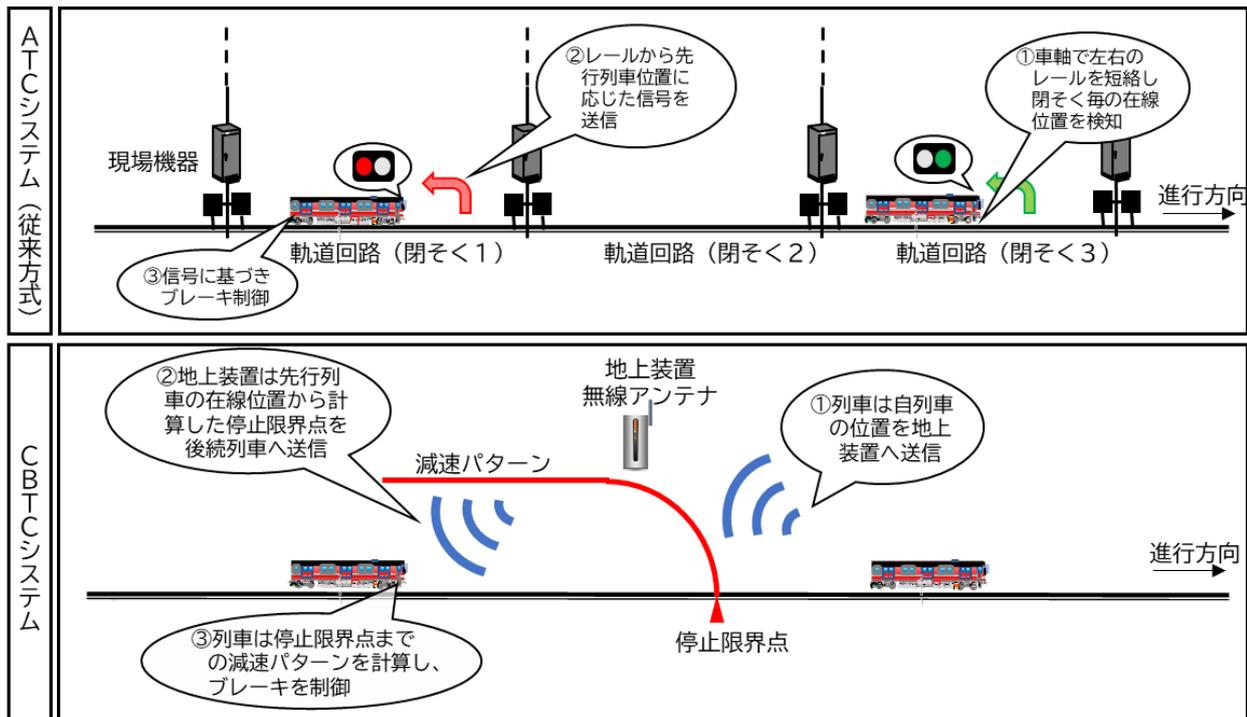
2022年11月	丸ノ内線の営業線一部区間（四ツ谷駅～荻窪駅間）における走行試験開始
2023年6月	CBTCシステムにおける乗務員の操作訓練を開始
2023年9月	丸ノ内線の営業線全区間における走行試験開始
2024年度中	丸ノ内線におけるCBTCシステムでの営業運転開始
2026年度中	日比谷線におけるCBTCシステムでの営業運転開始

東京メトロは、安全・安心な鉄道サービスを提供できるよう、列車運行の安定性向上に向けた取組みを進めてまいります。

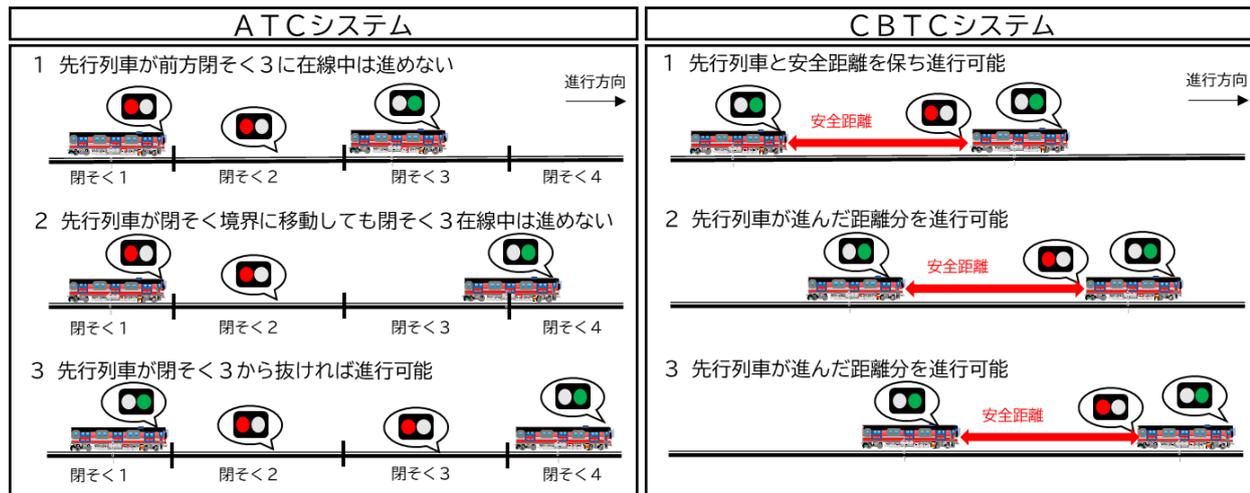


無線式列車制御システム「CBTCシステム」について

1 システム概要



2 高い遅延回復効果について (固定閉そくから移動閉そくへの変更)



3 事故等発生時の単線並列運転による不通区間の排除

